

# 学校再開時の教育課程再編成に向けて

## 学習保障につなげるアイデア（学校再開時の教育課程編成）

### 令和2年度の教育課程について

令和2年度の学校教育活動について、その再開と同時に児童生徒の学習保障のための教育課程が円滑に実施できるよう準備を進めていく必要があります。

小学校及び中学校学習指導要領は、通常は年間35週（小学校1年生は34週）を教科指導にあてることを標準的に考えて作成されています（35週に学校行事は含まない）。小学校5年生であれば、週29コマ×35週＝1015時間の年間授業時数になります。

また、多くの教科書の内容も標準的に35週で履修できる分量になっています。

仮に、5月21日以降学校を再開したとすると、下表のように31週の授業週数になりますが、学校行事（運動会・学習発表会・修学旅行等）の事前事後に2週程度要すると仮定すると、教科指導に使えるのは29週程度となります。

これを単純計算すると、35週÷29週＝約1.2となり、例年の1.2倍のスピードアップをしないと、学習内容が終われないことになります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通常週数	2	3	4	2	0	4	4	4	3	3	4	2	35週
5月下旬再開週数	0	1	4	2	0	4	4	4	3	3	4	2	31週

しかし、児童生徒の理解の状況は、教科の特性や児童生徒個々によって習得の差があります。その教科が苦手な児童生徒や学習に向かうことに時間がかかる児童生徒が取り残されてしまわないよう留意する必要があります。

その上で、各学校の教育課程を編成し直す必要があります。例えば、配当時数が12時間の単元なら、第1時と第2時を1時間で扱い、第3時から第8時は通常通り、第9時と第10時は1時間で扱い、第11時と第12時はまとめと定着をじっくり取り組むなど、メリハリをつけて単元構成をしていくことが大切です。



### 教育課程見直しの留意点

令和2年度の教育課程の再編成及び実施に当たっては、次の点に留意する必要があります。

#### 【教育課程の再編成について】

- (1) 教育課程の実施について、当初年間指導計画作成時の余剰時数等で対応が可能か検討する。
- (2) 授業時数や内容の不足が見込まれる場合、年間を通して帯単元で構成されている内容や、教科横断的な学習が可能な内容について、関連づけて指導するなど効果的・効率的なカリキュラムに編成する。
- (3) 令和元年度の未指導分や定着の弱い単元や内容についても、令和2年度の教育課程に組み込む。
- (4) 総合的な学習の時間について、長期休業中や土日等に学校の外部において行う場合、探究的な学習の過程を踏まえて、その位置づけを年間指導計画などに明確にし、各学校の判断により1/4程度まで学習活動を展開できることを鑑みて検討する。

#### 【再編成後の教育課程の効果的な実施について】

- (1) ICT機器等を効果的・効率的に活用する（課題の把握、思考の可視化、反復学習等）。
- (2) 取り残される児童生徒が出ないように、補習的な指導または補充指導及び個別指導等で効果的に指導を行う。
- (3) 休業中の家庭学習で進捗が認められる内容は、学習評価が可能かあるいは宿題等での対応等を検討する。